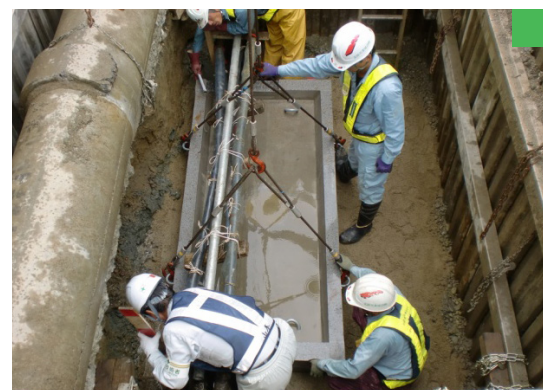




株式会社サンレック

都市の無電柱化などで脚光を浴びる レジンコンクリートの専門メーカー

レジンコンクリート専門の株式会社サンレック。派手さはないが、都市の無電柱化やトンネル内補修など、社会ニーズにマッチした事業で注目されている。



強くて軽い、耐久性のあるコンクリート

地上に林立する電柱や電線を地中に埋め、災害に強い美しい街をつくる無電柱化工事が日本各地で始まっている。この工事に欠かせない「電線共同溝」の製造で高い技術力を誇るのが、東京都板橋区に本社を置くサンレックである。

電線共同溝は、セメントコンクリートでも作れるが、同社のそれは「レジンコンクリート」という独自の材料を使う。通常のコンクリートのよ

分野のパイオニア的企業になった。

トンネル補修事業強化のため 同業者のプレス事業を買収

多角化戦略をより科学的なアプローチに変えたのが2013年に社長に就任した守屋氏である。コアコンピタンスを堅持しつつ、事業をアーバン（ライフライン向けの製品事業）、環境（太陽光パネルの設置台など）、リニューアール（補修）の3分野に分け、全社員の参画のもとで、目標管理を徹底的に行うというものだ。社員のモチベーションを向上させ、各事業部の一体感を持たせるために、「社長・社員対話の継続」、「月刊社内報の発行」、「写真付き社員名簿の配布」などの施策も実施しており、これらの成果が実り、ここに来て同社の業績は上昇傾向にある。

中でも、全国の自治体などから引き合いが殺到しているのがリニュー

アル事業のひとつの「水路トンネルの補修・補強板」である。老朽化したトンネル内をレジンコンクリートのパネルで補修・補強するもので、パネルライニング工法と呼ばれる。

その製法は、レジンコンクリートの板材にプレスで圧力をかけて強度を高めた後、板材を加熱して馬蹄型に曲げるといった独特のもの。「トンネルによって、外壁の大きさや曲率は微妙に異なるが、どんな形状の外壁にも対応できる」と守屋社長。既存設備だけでは注文をさばき切れないため、2014年に同業者のプレス事業部門を買収し、設備と社員の大規模な増強を行っている。

同社の事業は、派手さはないが、人々の暮らしに役立つ公共性の高い仕事であり、その前途は明るい。当面、売上高を40億円台に乗せることを目標にしている。

（2015年4月）

- パネルライニング工法による水路トンネルの補修・補強実施例。
- レジンコンクリートの見本。
- 電線共同溝の工事現場。
- 電線共同溝。
- 太陽光パネルの屋上設置用基礎台。

うに水やセメントは使わず、ポリエステルなどの熱硬化性樹脂（レジン）を結合材として、砂や砂利を固めた新しい材料だ。

最大の特徴は、一般的なコンクリートに比べ5〜8倍の強度を持ち、一般製品の2分の1から3分の1という薄型軽量化が可能であることだ。現場での設置作業がスピードアップする。また、酸や塩分に強く耐久性が高いなどの特徴もある。

同社ではこれらの電線共同溝を、小江戸の名前で親しまれる埼玉県川越市をはじめ、横浜中華街、JR鎌倉駅東口の小町通りなど、観光地を中心にさまざまな場所に納入しているが、「国や自治体の政策次第で今後、需要が爆発的に伸びる可能性がある」と、同社の守屋社長（61歳）は話す。

通信マンホールの專業から 市場の多角化へ

レジンコンクリートは、1960年代に日本電信電話公社（現NTT）が開発した土木構造物用材料であり、プラスチックの用途研究の中から生まれたものだという。その技術を継承し、レジンコンクリート製品の製造販売を專業にしているのがサンレックである。

創業は1970年で、高度成長期に急伸した通信需要に対応し、レジンコンクリートにより、通信ケーブルを収容するマンホールを専門に作るメーカーとして発足。当初は愛知

沿革

- 1970年 前身である名阪工材株式会社（愛知県）、中央工材株式会社（東京都）創立
- 1972年 西日本工材株式会社（広島県）創立
- 1991年 工材会社3社が合併して株式会社サンレックに改称
- 1997年 大阪営業所開設
- 2000年 東北営業所開設。ISO9001認証を取得
- 2002年 日本レジン製品協会（JRPA）設立
- 2006年 本社および東京営業所を現所在地に移転

会社概要

- 所在地 東京都板橋区成増1-30-13サンリッツ三井生命ビル
- 設立 1970年10月
- 資本金 3億2500万円
- 売上高 31億8700万円（2014年6月期）
- 従業員数 120人（パートを含む）
- 事業内容 レジンコンクリート製品の製造・販売、新材料の研究開発
- URL: <http://www.sunrec.co.jp/>



守屋洋社長